

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

社会教育指導員には日本人に英語や外国文化を教えることの他に、日本の文化や社会についてもできるだけたくさん学ぶ責任があります。そうすることで、国に戻った時、日本で経験したことを友人や家族に話することができます。社会教育指導員が学ぶことは様々な面で相互関係にあります。私は今年の1月22日、友人に伝統的な日本の寺院に招待されとても幸福に感じました。

私はフィリピンでのクリスマス休みから戻ってきてすぐ、この儀式（大般若）に参加することができとてもすばらしく思いました。なぜなら、日本とフィリピンを比較する良い機会をもつことができたか



保泉寺にて

らです。友人は私に、この寺院の儀式は1年に1回だけ行われると説明してくれました。人々は仏陀の慈悲を受けるため、そして幸運を手に入れるために出席します。私は儀式の厳かさ、さらには人々の誠実さ、信念にとっても驚きました。儀式全体の中で一番印象に残っている部分は、般若心経600巻のお経でした。お坊さんはこれらの本を開くこと、読むことがとても上手でした。私は、儀式そしてお坊さんの写真もたくさん撮りました。

私がカトリックの国の出身、そしてカトリック教徒であることで、寺院で行われることと教会で行われることを比較することができました。仏教とカトリックは非常に異なる宗教ですが、たとえ異なった宗派に属していても私たちは皆、優しい心と健康な体を目指す同じ人間であると私は信じています。

私はバレンタインデー前日にこの記事を書いています。私は皆さんにハッピーバレンタイン!とあいさつしたいです。皆さんがこの日だけでなく毎日、愛と幸福を見つけることができますように…。

ここ日本では、バレンタインデーに女性から男性にチョコレートを渡すという話を聞きました。明日たくさんのチョコレートをもらえることを楽しみにしています。みなさん、お互いに愛し合いましょ！

公立小野町病院付近にさしかかったところ、向こうから女子高校生らしいグループ4〜5人が近づいて来た。横一列に並んで楽しそうにおしゃべりをしながら歩いている。ふざけ合っているしぐさも見る。

川岸の草はキレイに刈られ、気のせいかわ昔より川幅が少し広くなった感じがする。流れには鯉らしい魚影すら見える。自然に対する町の人の心遣いが伝わって嬉しい気分だ。

一昨年の6月、久しぶりに小野町を訪れたときのこと、たまには生まれ育った町の様子がどう変わったかと思い、夏井川に沿って土手の道を、谷津作和久稲荷の橋から本町の方へと歩いてみた。町中の表通りと平行しているこの土手の道の方が年寄りの散策には絶好のコースである。いつもは車で通り過ぎてしまう町並みや店の名前なども変わってはいるが、50年前には木造の建物や店があったとこの場その場で記憶がほとんどよみがえってくる。

(仲町出身・千葉支部)

先崎昌之

すれ違いの挨拶



える。とに角にぎやかな一団である。こちらとしてはジロジロ見るのも失礼だと思い、右側の風景を眺める格好でやり過そうと歩みを進めた。

距離が近づくにつれ、グループの列が横から縦となり、そしてすれ違いの瞬間、先頭のひとり「こんにちは」続いてほかの子達も「こんにちは」元気な挨拶。反射的に「こんにちは」と返したのだが、全く予期せぬことだっただけにタイミングのずれた挨拶となってしまった。無理もない。青春真っ只中の若さ溢れる女の子達から一斉に発せられた私への挨拶に、よそ者の年寄りが驚かぬはずがない。

恐らくこんな光景は小野町の人にとっては日常のことゆえ、私みたいに大げさには思わないのかもしれない。素晴らしいことである。

女の子達は、再びおしゃべりをしながら、振り向きもせず去って行った。

